

週報



国際ロータリー
第2560地区

2006~2007 年度
2006年12月11日第1811回 本年度第19回

SanjoMinamiRotaryClub

【出席率】 会員62名中45名

【先々週の出席率】 84.48%

【ビジター】 三条東RCより 栗山正男君
三条北RCより 大野新吉君

【先週のメイクアップ】

12/5 田上あじさいRCへ 飯山勝義君

12/9 ローターアクト地区大会(上越)へ 馬場信彦君

2006~07年度
クラブ会報特別企画



あの人 あの時
大久保秀男 君

会長挨拶

馬場 一敏 会長

挨拶致します。

1. 本日は、草野さんの卓話です。よろしくお願いします。
2. 先週は、「総会」で次年度の組織の発表及び次々年度地区幹事の蕨沢さんの地区役員の発表など、次年度に向けての準備が着々と進んでおります。
3. 昨日から我が家に1年交換留学生のレナさんが、加茂の阿部さん宅からホームステイとして移ってまいりました。言葉については来日して4ヶ月近くなりますので、言っていることは理解できているようですが、『食べ物』が一番の問題です。「みそ」「しょうゆ」はだめ、「生野菜」「海藻」はだめ、野菜は煮たもの、スープもの、「味付け」もとても大変らしいです。おかげさまで、しばらくは変わった食事をするようになります。これからの楽しみ、冬の味覚の「なべ物」もだめなようですし、正月の「おせち」もほとんど食べられないようです。しかし、「はし」は器用に使っております。以上のことから好き嫌いではなく『食文化』の違いがはっきりとわかります。我が家にいる間「日本語」で会話できるようになることを期待しております。

国際ロータリー会長
第2560地区ガバナー
第4分区アシスタントガバナー
会長 馬場 一敏
三条南ロータリー事務局

ウィリアム ビル ボイド [ニュージーランド]
中 條 耕 二 [三条北]
桑 原 寛 治 [加 茂]
幹 事 田 代 徳太郎 SAA 広 岡 豊 樹
〒955-8666 三条市旭町2-5-10 三条信用金庫本店内
TEL 0256-35-3477 Fax 0256-32-7095

E-mail info@sanjo-minami.jp URL <http://www.sanjo-minami.jp>

地区大会協力お礼

地区大会実行委員長 大野新吉君（三条北RC）

中條ガバナー事務所運営に何かとご協力いただき有難うございます。

3月開催の会長・幹事エレクト研修セミナー、5月開催 地区協議会、そして10月の地区大会記念ゴルフ大会、地区大会と関係役員、皆様には多大なるご協力をいただきお蔭様で無事終了することができました。厚く御礼申し上げます。

馬場信彦ガバナー就任に際しましては、このお礼返しに北クラブも大いに協力させていただきますので、お申し付け下さい。

ご協力心より感謝申し上げます。有難うございました。

幹事報告

田代 徳太郎 幹事

●中條ガバナー事務所より FAX番号変更のお知らせ

12月13日より 050-3437-650 ➡ 新FAX番号 0256-32-7320

●三条市特別支援教育研究協議会より 市内特別支援学級児童生徒の『ウィンターフェスティバル』出席お礼

※ 12月1日 馬場一敏会長 出席

委員会報告

◎地区オン・ツー・ソルトレイクシティ委員会

天田 匡 委員

2007年国際ロータリー年次大会 参加旅行のご案内

〈Aコース〉2007年6月16日（土）～23日（土）（6泊8日） お一人482,000円 成田発着

〈Bコース〉2007年6月16日（土）～20日（水）（3泊5日） お一人330,000円 成田発着

*中條ガバナーはAコースで参加されます。A、B両コースとも国際大会会場へ徒歩圏内のホテル「ザ・グランドアメリカホテル」、このホテルは世界のホテル100選にも選ばれ、お部屋も広々とした客室のエグゼクティブスイートを用意致しました。

ソルトレイクシティ国際大会

アメリカ合衆国 ユタ州

大会開催期間：2007年 6月17日（日）～20日（水）【4日間】

大会会場：ソルトレイクシティ ソルト・パレス・コンベンションセンター



ニコニコボックス

～ 12月11日 26,000円 今年度累計 481,000円 ～

三条北RC

大野君

馬場（一）君

田代君

草野君

佐藤（栄）君

長谷川君

中條年度に入り諸大会に南クラブ様のご協力をいただきました。本日はそのお礼に出席させていただきました。今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。

草野さん、卓話ご苦労様です。BOXに協力致します。

草野さんの本日の卓話楽しみにしています。

本日、卓話です。よろしくお願い致します。

一昨夜（9日）、草野先生のお招きでスバラシイ夜を楽しみました。

まさにサタディナイトフィーバーでした。

草野先生が主催される同病院のロビーコンサートのファンの一人です。先週も楽しい「ジャズ」の一時を堪能し、その後別席で更に楽しませていただきました。卓話に期待して！

安達君、坂井君、坂本君、田中（久）君、坪井君、銅冶君、野崎君、広岡君、渡邊（久）君

草野先生、卓話ご苦労様です。楽しみにしております。

相田君

前立腺肥大症手術のため、三条済生会病院に11/30～12/5まで入院しました。

現在良好ですが、酒は暫く禁酒が必要。

馬場（信）君

12/9（土）三条クラブの成田さんとローターアクト地区大会が上越市で開催されましたので出席してきました。年齢制限18～30才までの会員ですので元気一杯の会でした。

来年は三条で開催です。また、本日の草野先生の卓話に期待しています。

天田君

2560地区オンツースルトレイク委員会より、国際大会のご案内を申し上げます。

皆様の参加宜しくお願い致します。

滝口君

消雪対策が全部完了しましたが、やはり雪が降らない方がいい。今日のような日が続いてくれることを願ってニコニコボックスへ。

蕪澤君

12月も中程となりました。忘年会シーズン、寒さの折柄、健康に気をつけ楽しい日々を送りましょう。

田中（悌）君

久しぶりの快晴、やっぱり晴れた日はいいですね。

野中君

BOXに協力！来週の忘年会が楽しみです。

佐藤（嘉）、木原君、渡邊（光）君

BOXに協力致します。

野島君

草野先生、卓話ご苦労様です。BOXにご協力いただきありがとうございました。

卓話

「救急について」

草野 恒輔 会員



はじめは、365日の夜間救急診療について県央4つの市町村で52名でスタートしました。主に内科・小児科で構成しています。その後、人数が増えて現在57名となり、かなり定着してきたと思っています。しかし、それでも足りません。

救急隊が1年で見附を除く県央出動数、燕・弥彦地域・三条地域・加茂地域の3つの消防隊で年間7744回出動しています。ほぼ1000回は病院から病院への転院に利用されますが、救急患者の搬送は6741名になります。ほとんどが県央地域で管理されています。ただ県央以外に運ばれる人は879名います。つまり1日当たり2.4人となり、これがこの地区にとって問題となります。治療には、1時間/人かかりますので夜、寝れないということになります。つまり深夜の救急を見るのが重要となります。

この6月、高橋前市長と泉田県知事との話の中で、最初の1次救急は市町村単位でお願いしたいと言われました。しかし現在自宅と病院が隣りというケースが少ないのです。つまり開業医に夜間救急を任せる時代ではなくなっているのです。そこで知事に1、2、3次を一気に解決する方法は『独立型ER』をつくることと提案しました。それを県の医者を使って行う提案をしたのですが、「これ以上県立病院の医師を少なくしないで欲しい」と断られました。その後、高橋さん、国定さんと相談を続けていました。現在、医師会と行政が一体となって動いています。県央の行政、西蒲原医師会を含め、5つの医師会が一緒となり、かなりはっきりとした姿が見えてきました。

今、病院の医者が少なくなっています。それはなぜか。整形外科から始まって忙しすぎて医者が自分たちのやりたいことができない理由で開業医になる医師が増えてきているからです。それと同じことが内科・外科にも移り、日本の病院制度の崩壊が始まってきています。国は全国の138万床を75万床に減らす政策に入っています。この6月から施行されて、病院のbedが少なくなっています。私の病院は196bedですが、医者は足りていますが看護師が足りません。現実、bedが少なくなっているのです。救急に対しても効率の良いシステムをとということで、県は県内を7つに区分け、この地域に2次救急、ここには救急救命センターを必ず入れなければいけないのです。

今回、新発田にできた2.5次救急施設をこの地域につくらなければだめとされています。しかし、公設民営のため現実5～10年ではできない。相変わらず1次救急から逃れられない。せめて独立型の救急救命センター(独立型ER)10bed/日を求めたが、やはりだめでした。

そこで県央地域医師会で検討しているのが 内科・小児科・外科の三つでやるのはどうかということです。つまり外科20名、小児科12名を365日でやって、450回出動を12名にさせるのはどうか。出れない日は電話で拘束しています。迷う症例を電話で確認しながら治療を現在やっています。今まで9時半までだった診療時間を最低10、11時にしたいと考えています。

三条市では県央地域の方が各地域からの医師が集まりやすいとのことで、深夜診療できる、つまり、医者・看護師が仮眠できる場所をつくったら、その時間なんとか診療にこぎつけたいと思っています。

その後、独立型ERを 県・国が何とかしようと思った時に、そこに10bedの入院施設をつくれればいいというような、発展できる形でつくっていかうということで、来年度いっぱい建物完成ということで動いています。

県央には二つの夜間救急診療所があります。ふたつにはいくらか温度差がありますが、県央全体で考える必要があると思います。県央で新しい夜間診療をしなければ、2年後に消滅する危険性がある。つまり長岡地域に組み込まれるのです。ひとつのことをやりますと必ず反対があるのですが、救急をやることについては、医者たちは誰も反対しません。ふたつがひとつになって大きくなれるよう努力していきますので、皆さんのご協力をよろしくお願いします。

参考

1次救急：入院を必要としない医療

2次救急：入院、手術を必要とする医療

3次救急：重症、高度専門医療を必要とする医療

ER : Emergency Room / 救急センター

四つのテスト

— 言行はこれに照らしてから —

I 真実か どうか

III 好意と友情を深めるか

II みんなに公平か

IV みんなのためになるか どうか